(案)

羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針

令和 年 月

羽生市教育委員会

# 目 次

1	羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針策定の背景と目的・・・・1
2	児童生徒数の推移及び推計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3	適正規模・適正配置の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・8
4	適正規模・適正配置を進めるにあたっての留意点······9
5	適正規模・適正配置の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
6	具体的な適正規模・適正配置の計画・・・・・・・・・・・・・・・・・10

## 1 羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針策定の背景と目的

本市における児童生徒数は、1984 (昭和 59) 年度のピークから、急激な少子 化の影響により、令和 2 年現在で約 51%に減少しており、小中学校の小規模化 が進んでいます。今後の推計からも、更なる児童生徒数の減少は避けられず、適 正な学校規模の維持はますます困難になることが予想されます。

本市の小規模校では、子どもたち一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導ができるという小規模校ならではのメリットを生かし、特色ある教育を展開してきました。しかし、このまま児童生徒数の減少が進行すると、子どもたちの学習や学校生活への影響や教職員の配置の問題、学校行事の縮小等、次第にデメリットの方が大きくなることが懸念されます。子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、お互いに切磋琢磨しながら、学力・学習意欲を高め、心と身体を健やかに成長させるためには、小中学校は一定の集団規模を確保することが必要であり、全国的に研究や取組が進められている小中一貫教育や義務教育学校についても見解を深め、本市の教育に効果的に取り入れていく必要があると考えられます。

また、校舎や体育館等の学校施設においても、そのほとんどが昭和 50 年代前後に建設されており、老朽化が進行しています。本市ではこれら学校施設の耐震補強や大規模改修工事に取り組んできましたが、今後は施設の安全と機能の維持に一層多額の費用がかかることが見込まれます。

これらのことから、義務教育 9 年間を通し、子どもたちが自ら夢や目標を持ち、生きる力を育むことができる環境づくりを目指し、「羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針」(以下、「基本方針」という。)を策定します。

# 2 児童生徒数の推移及び推計

# (1) 児童生徒数の推移

本市の児童生徒数は、1984(昭和 59)年度の 7,259 人をピークに、年々減少しており、2020 (令和 2)年度現在は、ピーク時の 51.1%にあたる 3,710 人となっています。

【市立小・中学校の児童生徒数の推移(経緯)】

児童生徒数のピークは	1984	1995	2005	2010	2015	2020
1984(S59)年	(S59)	(H07)	(H17)	(H22)	(H27)	(R02)
	36 年前	25 年前	15 年前	10 年前	5年前	現在
総人口	50, 705	55, 826	57, 640	57, 190	55, 817	54, 556
0~14 歳人口	11, 094	9, 243	7, 979	7, 439	6, 677	5, 930
人口比	21.9%	16.6%	13.8%	13.0%	12.0%	10.9%
児童数(小学校)	4, 933	3, 976	3, 368	3, 095	2, 748	2, 424
対 1984 比	_	<b>▲</b> 19.4%	<b>▲</b> 31. 7%	<b>▲</b> 37.3%	<b>▲</b> 44. 3%	<b>▲</b> 50.9%
生徒数(中学校)	2, 326	2, 141	1,710	1,678	1, 531	1, 286
対 1984 比	_	<b>▲</b> 8.0%	<b>▲</b> 26.5%	<b>▲</b> 27. 9%	<b>▲</b> 34. 2%	<b>▲</b> 44. 7%
児童生徒数計	7, 259	6, 117	5, 078	4, 773	4, 279	3, 710
対 1984 比		<b>▲</b> 15. 7%	<b>▲</b> 30.0%	<b>▲</b> 34. 2%	<b>▲</b> 41. 1%	<b>▲</b> 48. 9%

(時点:各年度5月1日)

# (2) 学校別の児童生徒数と学級数の推移

学校別の児童生徒数は、ほとんどの学校が10年前と比べ減少しています。 全ての学年で単学級(クラス替えができない)の学校は5校です。

## 【各小学校の児童数の推移(過去10年)】

学校名	平成 22 年度(A)	平成 27 年度	令和 2 年度(B)	増減(B)−(A)
学校名	児童数(学級数)	児童数(学級数)	児童数(学級数)	児童数(学級数)
羽生北小学校	577 (18+2)	456 (13+2)	340 (12+2)	<b>▲</b> 237 ( <b>▲</b> 6)
新郷第一小学校	175 (7+1)	157 (6+1)	146 (6+1)	<b>▲</b> 29 ( <b>▲</b> 1)
新郷第二小学校	85 (6+0)	118 (6+2)	134 (6+2)	49 (±0)
須影小学校	354 (12+1)	301 (12+2)	303 (12+3)	<b>▲</b> 51 (±0)
岩瀬小学校	280 (12+2)	267 (11+2)	341 (12+2)	61 (±0)
川俣小学校	148 (6+0)	125 (6+0)	87 (6+1)	<b>▲</b> 61 (±0)
井泉小学校	382 (13+1)	378 (12+2)	304 (12+2)	<b>▲</b> 78 ( <b>▲</b> 1)
手子林小学校	428 (13+1)	383 (12+2)	320 (11+2)	<b>▲</b> 108 ( <b>▲</b> 2)
三田ヶ谷小学校	120 (6+0)	112 (6+1)	76 (6+1)	<b>▲</b> 44 (±0)
村君小学校	61 (5+1)	51 (4+1)	58 (5+1)	<b>▲</b> 3 (±0)
羽生南小学校	485 (15+1)	400 (12+2)	315 (11+4)	<b>▲</b> 170 ( <b>▲</b> 4)
合 計	3, 095	2, 748	2, 424	<b>▲</b> 671

# 【各中学校の生徒数の推移(過去10年)】

<b>学</b>	平成 22 年度(A)	平成 27 年度	令和 2 年度(B)	増減(B)−(A)
学校名	生徒数(学級数)	生徒数(学級数)	生徒数(学級数)	生徒数(学級数)
西中学校	546 (14+2)	514 (14+3)	414 (11+3)	<b>▲</b> 132 ( <b>▲</b> 3)
南中学校	560 (15+1)	523 (15+2)	438 (11+3)	<b>▲</b> 122 ( <b>▲</b> 4)
東中学校	572 (15+1)	494 (13+2)	434 (12+3)	<b>▲</b> 138 ( <b>▲</b> 3)
合 計	1,678	1,531	1, 286	▲392

(時点:各年度5月1日)

※各年度の児童生徒数は、特別支援学級を含む。学級数は、(通常学級+特別支援学級)を示す。 増減の学級数は通常学級の増減。

# (3) 児童生徒数の将来推計

今後も人口減少及び少子化が進むと予想され、2026(令和8)年度(住民基本台帳により未就学児の人数が把握できる)には全児童生徒数はピーク時(1984(昭和59)年度)の46.7%となり、さらに、2045(令和27)年度(公表された資料により、当市の人口が推計されている)には、ピーク時の41.2%(人口ビジョン推計)/34.4%(社人研推計)となると推測されます。

【市内小・中学校の児童生徒数の推移(見込み)】

Γ	,		1	1	1	1	
	2020	2025	2026	2030	2035	2040	2045
	(R02)	(R07)	(R08)	(R12)	(R17)	(R22)	(R27)
	現在	5年後	6 年後	10 年後	15 年後	20 年後	25 年後
9/8 A D	E4 EE6	54, 512		54, 494	53, 200	51, 695	50, 096
総人口	54, 556	50, 995	_	48, 680	46, 153	43, 407	40, 593
		5, 334		5, 178	4, 906	4, 719	4, 505
0~14 歳人口	5, 930	9.8%		9.5%	9.2%	9.1%	9.0%
人口比	10.9%	4, 990		4, 626	4, 257	3, 963	3, 651
		9.8%		9.5%	9.2%	9.1%	9.0%
		2, 311	2, 212	2, 245	2, 128	2,047	1, 955
児童数(小学校)	2, 424	<b>▲</b> 4.7%	<b>▲</b> 8.7%	<b>▲</b> 7.4%	<b>▲</b> 12.2%	<b>▲</b> 15.6%	<b>▲</b> 19.3%
対 2020 比	_	2, 236	2, 137	2,072	1, 905	1,774	1,634
		<b>▲</b> 7.8%	<b>▲</b> 11.8%	<b>▲</b> 14.5%	<b>▲</b> 21.4%	<b>▲</b> 26.8%	<b>▲</b> 32.6%
		1, 227	1, 180	1, 192	1, 130	1,087	1,037
生徒数(中学校)	1, 286	<b>▲</b> 4.6%	<b>▲</b> 8.2%	<b>▲</b> 7.3%	<b>▲</b> 12.1%	<b>▲</b> 15.5%	<b>▲</b> 19.4%
対 2020 比	_	1, 183	1, 136	1, 097	1,009	939	865
		<b>▲</b> 8.0%	<b>▲</b> 11.7%	<b>▲</b> 14. 7%	<b>▲</b> 21.5%	<b>▲</b> 27. 0%	<b>▲</b> 32. 7%
		3, 538	3, 392	3, 437	3, 258	3, 134	2, 992
児童生徒数計	3, 710	<b>▲</b> 4.6%	<b>▲</b> 8.6%	<b>▲</b> 7.4%	<b>▲</b> 12.2%	<b>▲</b> 15.5%	<b>▲</b> 19.4%
対 2020 比	_ [	3, 419	3, 273	3, 169	2, 914	2, 713	2, 499
		<b>▲</b> 7.8%	<b>▲</b> 11.8%	<b>▲</b> 14.6%	<b>▲</b> 21.5%	<b>▲</b> 26. 9%	<b>▲</b> 32.6%

(0-14 歳増減率) '25/0.971 '30/0.947 '35/0.962 '40/0.955

(時点:2020年度 5月1日)

(0-14 歳増減率) '25/0.927 '30/0.920 '35/0.931 '40/0.921

※2025 年以降の総人口は、上段:「羽生市人口ビジョン(平成 28 年 2 月)」における羽生市の目指すべき総人口、下段:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」で推計された羽生市の総人口。

※2025 年以降の 0~14 歳人口は、上記の総人口に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30 年推計)」で推計された羽生市の総人口に対する 0~14 歳人口の割合

を用いて算出。(人口ビジョンでは、0~14歳人口が示されていないため)

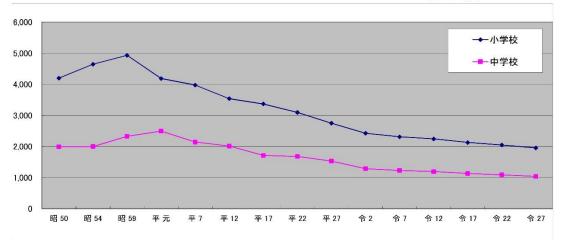
※児童生徒数の推計は、2025、2026年度は住民基本台帳により現在の未就学児数をもとに、2030年度以降は0~14歳人口の増減率により算出。人口ビジョンによる推計では、これに岩瀬土地区画整理事業区域への市外からの想定転入者数を加算した。

市内小中学校児童生徒数の推移・推計

	1975	1979	1984	1989	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2048
	昭 50	昭 54	昭 59	平 元	平 7	平 12	平 17	平 22	平 27	令 2	令 7	令 12	令 17	令 22	令 27
羽生小	1,685														
羽生北小		981	980	682	665	601	550	577	456	340	345	335	317	305	291
新郷第一小	267	366	414	346	332	239	190	175	157	146	81	79	75	72	69
新郷第二小	105	143	133	77	97	101	92	85	118	134	93	90	85	82	78
須影小	379	375	399	318	332	349	324	354	301	303	323	314	298	287	274
岩瀬小	342	393	437	385	403	269	258	280	267	341	358	349	331	319	304
川俣小	250	294	258	257	275	261	229	148	125	87	137	133	126	121	116
井泉小	395	495	562	462	396	395	357	382	378	304	303	294	279	268	256
手子林小	366	374	406	454	415	440	485	428	383	320	307	298	282	271	259
三田ヶ谷小	237	244	253	266	196	137	141	120	112	76	62	60	57	55	53
村君小	173	176	182	176	139	105	103	61	51	58	23	22	21	20	19
羽生南小		805	909	764	726	641	639	485	400	315	279	271	257	247	236
小学校計	4, 199	4, 646	4, 933	4, 187	3, 976	3, 538	3, 368	3,095	2, 748	2, 424	2, 311	2, 245	2, 128	2,047	1, 955
西中			878	941	767	738	603	546	514	414	350	340	322	310	296
南中			795	817	687	671	563	560	523	438	515	501	475	457	436
東中			653	736	687	604	544	572	494	434	362	351	333	320	305
羽生中	1,018	1,096													
新郷中	184	167													
須影中	187	172													
井泉中	169	185													
手子林中	207	178													
千代田中	224	199													
中学校計	1, 989	1, 997	2, 326	2, 494	2, 141	2,013	1,710	1,678	1, 531	1, 286	1, 227	1, 192	1, 130	1,087	1, 037
合計	6, 188	6, 643	7, 259	6, 681	6, 117	5, 551	5,078	4, 773	4, 279	3, 710	3, 538	3, 437	3, 258	3, 134	2,992

↑令7 住民基本台帳より未就学児数を基に 算出(岩瀬土地区画整理事業による増加考慮)

↑令12以降 「羽生市人口ビジョン」を基に算出



# 【各小学校の児童数の推移(見込み)】

	2020	2025	2026	2030	2035	2040	2045
学 校 名	(R02)	(R07)	(R08)	(R12)	(R17)	(R22)	(R27)
	現在	5 年後	6 年後	10 年後	15 年後	20 年後	25 年後
双件化点类技	240	9.45	990	335	317	305	291
羽生北小学校	340	345	338	320	294	274	252
新郷第一小学校	146	81	72	79	75	72	69
利州另一小子仪	140	01	12	75	69	64	59
新郷第二小学校	134	93	88	90	85	82	78
利柳另一小子仪	134	93	00	86	79	74	68
須影小学校	303	323	320	314	298	287	274
須彪小子仪	303	323	320	299	275	256	236
岩瀬小学校	341	358	329	349	331	319	304
石阀八子仪	541	283	254	262	241	224	206
川俣小学校	87	137	139	133	126	121	116
/				127	117	109	100
井泉小学校	304	303	304	294	279	268	256
万永小子区		303	001	281	259	241	222
手子林小学校	320	307	275	298	282	271	259
于1700年仅	320	301	210	285	262	244	225
三田ヶ谷小学校	76	62	63	60	57	55	53
二四万石万子仅	10	02	00	57	52	48	44
村君小学校	58	23	20	22	21	20	19
1747.于区	00	20	20	21	19	18	17
羽生南小学校	315	279	264	271	257	247	236
77.17.17.17.17	010	213	204	259	238	222	205
合 計	2, 424	2, 311	2, 212	2, 245	2, 128	2, 047	1, 955
Ц П	Δ, τωτ	2, 236	2, 137	2,072	1, 905	1, 774	1,634

#### 【各中学校の生徒数の推移(見込み)】

	2020	2025	2026	2030	2035	2040	2045
学 校 名	(R02)	(R07)	(R08)	(R12)	(R17)	(R22)	(R27)
	現在	5 年後	6 年後	10 年後	15 年後	20 年後	25 年後
西中学校	414	350	336	340	322	310	296
四中子仪	414	390	330	324	298	277	255
南中学校	438	515	486	501	475	457	436
用中子仪	430	471	442	437	402	374	345
東中学校	434	362	358	351	333	320	305
来中子仪	434		300	336	309	288	265
合 計	1 226	1, 227	1, 180	1, 192	1, 130	1, 087	1, 037
	1, 286	1, 183	1, 136	1, 097	1,009	939	865

(増減率) '25/0.971 '30/0.947 '35/0.962 '40/0.955

(時点:2020年度 5月1日)

(増減率) '25/0.927 '30/0.920 '35/0.931 '40/0.921

※児童生徒数の推計は、2025、2026 年度は住民基本台帳により現在の未就学児数をもとに、2030 年度以降は、上段:「羽生市人口ビジョン(平成28年2月)」、下段:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」を用いて推計した0~14歳人口の増減率により算出。人口ビジョンによる推計では、これに岩瀬土地区画整理事業区域への市外からの想定転入者数を加算した(岩瀬小学校、南中学校)。

羽生市では、人口の現状を分析し、将来への展望と今後目指すべき方向を示す「羽生市人口ビジョン」と、それに基づき今後の目標や注力すべき施策の方向性などをまとめた「羽生市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。そのため、学校の適正規模・適正配置を検討するにあたっては、この人口ビジョンの目標値から想定した児童生徒数を使用することとします。

## 3 適正規模・適正配置の基本的な考え方

## (1) 望ましい学級数の維持(クラス替えが可能な規模)

文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」 によると、望ましい学級数は、小学校では1学年2学級以上、中学校では学 校全体で少なくとも9学級以上と示されています。全ての小学校においてクラ ス替えが可能な規模となるよう、再編成を行います。

## (2) 義務教育学校の設置

小中一貫教育を推進するとともに、施設の建て替え時期と必要規模を考慮しつ、将来的に中学校とその学区内の小学校を再編成し、義務教育学校を設置します。

#### (3) 学校施設の集約

各学校の校舎及び体育館は、建築後30年以上経過した施設が全体の85%(34棟/40棟)を占め、それぞれが老朽化しています。構造体の耐震化は完了し、大規模改修工事を実施した施設もありますが、今後全ての施設の安全の確保と機能の維持をしていくことは大変困難です。児童数の推移と学校の再編成の進捗に合わせ、過剰となった施設を廃止し、施設維持に係る財政的負担を軽減します。

#### ※小中一貫教育とは

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた 教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。

#### ※義務教育学校とは

2015 (平成 27) 年の学校教育法改正により、小中一貫教育を行う新たな学校の種類の制度として規定された。

- ・目 的 心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものか ら一貫して施すこと。
- ・修業年限 9年とし、前期6年の前期課程及び後期3年の後期課程に区分する。

- 4 適正規模・適正配置を進めるにあたっての留意点
- (1) 再編成後の学校は、新たな学校として設置することから、新しい校名とします。
- (2) 再編成後の学校は、既存の学校の校舎を使用します。
- (3) 再編成後は、通学区域が拡大されることから、児童生徒の登下校時の安全 確保に努めます。小学校においては、通学距離が遠距離となる地域にはスク ールバスを導入します。中学校においては、徒歩か自転車での通学とします。
- (4) 学校の再編成に伴い、児童生徒の精神的不安を軽減するため、児童生徒、 教職員、保護者の間の連携を強化するとともに、対象となる学校間において 各種交流事業等を計画的に実施します。
- (5) 再編成後の学校においては、混乱や不安を防ぎ、円滑な学校生活がスタートできるよう、教職員が再編成対象校から継続的に配置できるよう考慮します。また、児童生徒の心のケア対策に努めます。
- (6) 再編成により、保護者に新たな経済的負担が生じないよう努めます。
- (7) 再編成後も学校・家庭・地域の協働による学校づくりを推進し、教育活動 を充実させます。また、閉校となる学校の歴史の継承に努めます。
- (8) 学校は、地域コミュニティ及び防災の拠点としての役割もあることから、 その跡地の活用については、羽生市公共施設個別施設計画等を踏まえ、地域 とともに検討します。
- 5 適正規模・適正配置の進め方
- (1) 再編成後の学区ごとに、学校・保護者・地域からなる組織を設置し、再編成を行ううえで必要な事項について協議します。
- (2) 再編成の進捗状況等については、市のホームページなどを通じて情報提供します。

## 6 具体的な適正規模・適正配置の計画

適正規模・適正配置の基本的な考え方に基づき、次のように再編成を行います。 中学校進学時の地区の分断を解消するため、西中学校区と南中学校区に分かれている岩瀬小学校を、南中学校区とします。新郷地区では、新郷第一小学校が西中学校区、新郷第二小が南中学校区となっていますが、両校を南中学校区とします。また、羽生南小学校を、南中学校区から西中学校区へ変更します。

なお、本計画は、児童生徒数の推移など社会環境の変化に応じて、適宜見直し を検討します。

### 小中学校適正規模 • 適正配置計画

